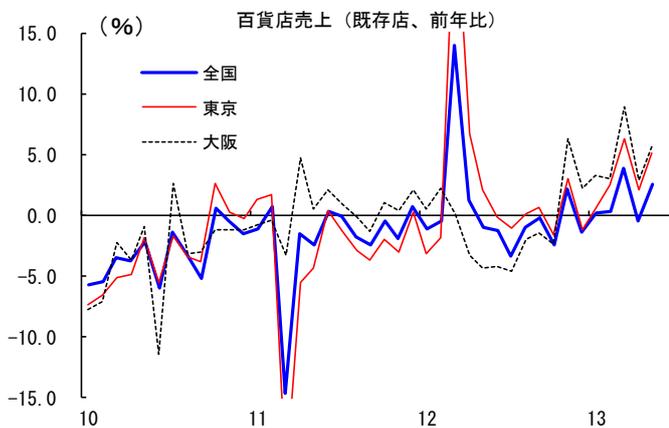


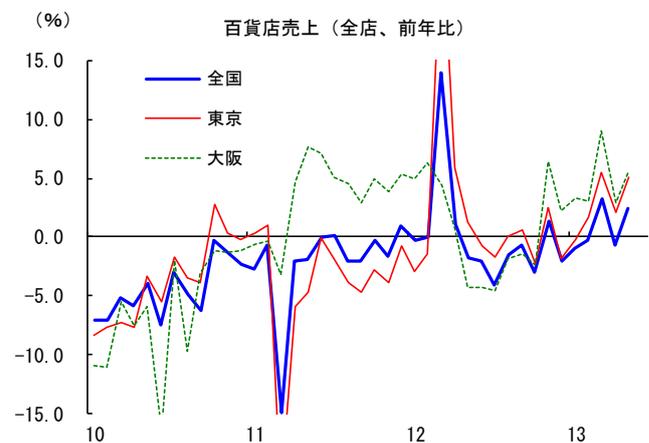
指標名：百貨店売上高(2013年5月)

発表日：2013年6月19日(水)

～5月は好調。株価下落の悪影響はこの時点ではみられず～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 エコノミスト 星野 卓也
TEL：03-5221-4526

(出所) 日本百貨店協会「全国百貨店地区別・商品別売上高」



(出所) 日本百貨店協会「全国百貨店地区別・商品別売上高」

○5月の百貨店売上高は好調な推移

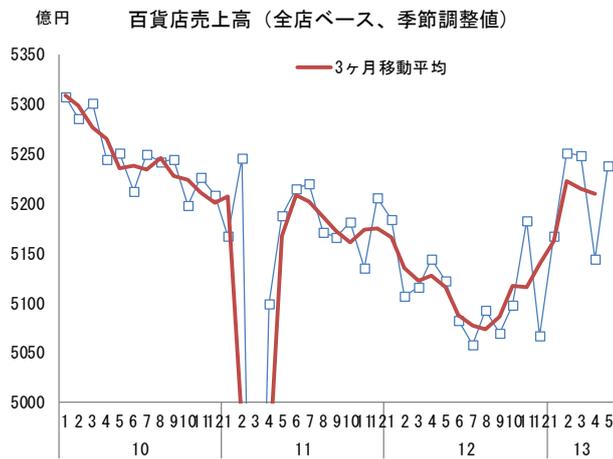
5月の百貨店売上高(全国)は、前年比+2.6%(既存店ベース)と2ヶ月ぶりの増加となった。当社試算の季節調整値(全店ベース)でも、前月比+1.8%(4月：▲2.0%)と増加した。4月は天候不順が足を引っ張ったが、5月は中旬以降の気温上昇が追い風となる形で良好な結果となった。

品目別に前年比をみると、主力の衣料品(前年比：+1.6%)が増加した。中旬以降の気温上昇に伴い、クールビズ関連商品などの売上が伸びたようだ。身のまわり品(同：+4.4%)や雑貨(同：+8.2%)は、共に7ヶ月連続の増加となっており、堅調な推移をみせている。特に、高額品の代表格である美術・宝飾・貴金属(同：+23.3%)は引き続き高い伸びを維持した。5月の時点では、月下旬の株価下落による高額消費への悪影響は窺えない。その他、家具(同：+4.6%)が好調に推移しているほか、食料品(同：+0.4%)も底堅い。また、円安を背景に東南アジアなどの外国人観光客が増加していることも、引き続き百貨店売上高の押し上げ要因となっているようだ。(調査対象の44店舗における外国人観光客の売上高は前年比+122.7%)

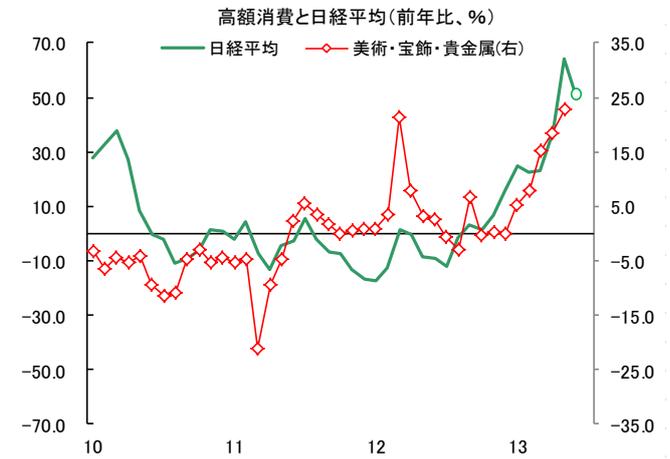
○やはり株価が気になるところ

このように、5月の百貨店売上高は、衣料品販売や高額品などの好調を背景に良好な結果となった。消費者マインドの改善などを背景に、このところの個人消費は好調な推移となっている。さらに足元では、雇用者数などにも徐々に持ち直しの動きがみられており、雇用・所得環境の回復が今後の消費を下支えることが見込まれる。

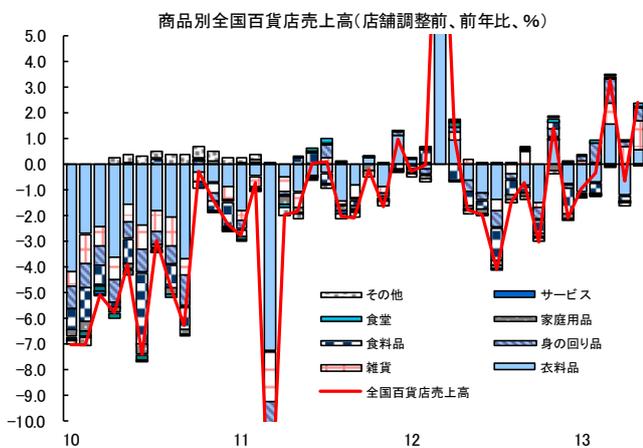
ただ、やはり気になるのは株価の動向である。景気ウォッチャー調査などでは、5月23日以降の株価の下落による消費への悪影響を懸念するコメントがみられはじめている。株価の下落が今後も続くようであれば、消費者マインドの悪化を通じて、個人消費に冷や水を浴びせることになりかねない。



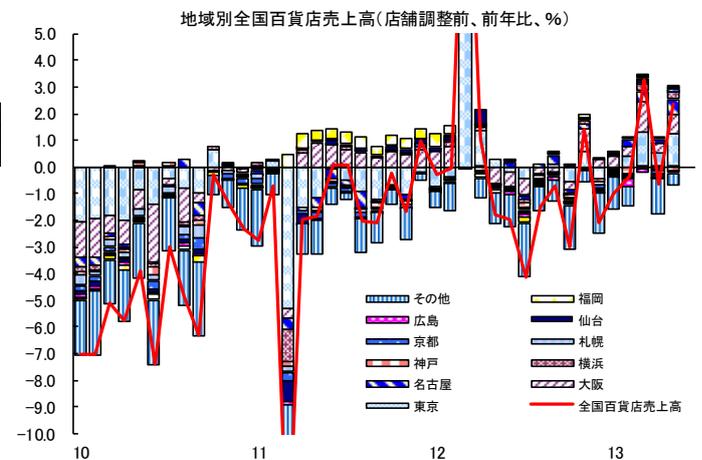
(出所) 日本百貨店協会資料より作成。季節調整は当社試算。



(出所) 日本百貨店協会「全国百貨店地区別・商品別売上高」、日本経済新聞社「日本経済新聞」
※美術・宝飾・貴金属は店舗調整前。直近の株価は、6月1日～18日の平均。



(出所) 日本百貨店協会「全国百貨店地区別・商品別売上高」



(出所) 日本百貨店協会「全国百貨店地区別・商品別売上高」